

総括及び引継ぎ事項作成用資料

第8期からの引継ぎ事項

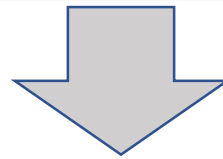
■引継ぎ事項

委員は、地域の声を一つでも多く拾い上げられるような「場づくり」と、協議会で得た情報を地域と共有し、新たな地域振興のきっかけづくり・つなぎ役としての役割を意識しつつ、厚田区民の一員として地域振興に向き合いながら協議を進めてもらいたい。

厚田学園は、学校・地域・保護者が一体となった学校運営が行われており、今後の厚田区の地域活性化を図る上で重要な役割を果たしていくと考えており、道の駅石狩「あいろーど厚田」とともに情報共有を図るなど、連携して取り組んでもらいたい。

地域おこし協力隊については、地域が求める人材についてより議論を深め、隊員の活動を後押しできるよう進めてもらいたい。

過疎化が進む地域の中で住み慣れた地域でいつまでも暮らせるよう、住民同士が共に支え合う「共助のまち」、すなわち「カンパニー構想」の実現を強く望む。



「共助のまち・厚田」を合言葉に次期のさらなる飛躍を期待し、第9期への引継ぎ事項とする。

第9期の協議事項（1）

■移住定住・情報発信

ターゲットは・・・

- ・子育て世代&働き盛りの人
- ・お金の余裕があり、ゆるく生活をしたいと考えている定年・早期退職者
- ・手に職を持った人、自然・田舎暮らしが好きな人、雪を苦にしない人

厚田に来てもらうためには・・・

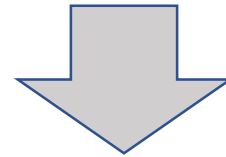
- ・居住地の確保
- ・空き家・交通課題の解消
- ・就学先の確保

移住の決め手となることは・・・

- ・札幌に近く通勤圏内
- ・適度に田舎で自然・景色がすばらしい
- ・おいしい食材・人の良さ

移住を考えるときに欲しい情報は・・・

- ・仕事や住宅に関する情報
- ・厚田でどんな生活ができるのか
- ・デメリットや不便なところの情報



観光を含めた情報を中心にした発信を行うことにより「厚田ファン」を増やす、あるいは関係人口の創出を図る。また、空家の活用を視野に入れながら、移住定住促進へとつなげていく。

第9期の協議事項（2）

■子ども

厚田に暮らして良かったことは・・

- ・毎日が穏やかに暮らせるところ、自然があるところ
- ・助けたり助けられたりの人間関係

子どもにしてあげられることは・・

- ・学生との交流、オンライン学習塾、部活動のサポート
- ・自発的な企画や願いを叶えてあげる取り組み

厚田で楽しかった思い出は・・

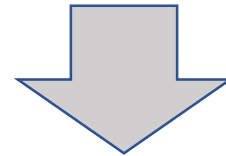
- ・人が集まるイベントや多くの子どもと関わるイベント
- ・スポーツフェスタ、ウインターレク、子ども会のキャンプ、相撲大会、夏祭り・・

子どもにしてほしいことは・・

- ・1次産業との関わり
- ・コミュニケーション能力や泥臭い人間関係を育てるような体験

現在の状況は・・

- ・イベントが少なくなり寂しくなった、人が集まらない、子どもが少なくなった



子どもは地域の宝。子どもが「郷土愛」、「厚田愛」を育み、たくさんの思い出を作ることができる地域になることが重要。

第9期の協議事項（3）

■関わる・支え合い

これまで行ってきた「移住定住」、「情報発信」、「子ども」という3つのテーマの協議の中で出てきた共通するキーワード

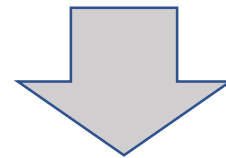
「関わる」

「集まる」

「支え合い」

「助け合い」

人が集まり関わることで、人と人との交流が生まれ、新たな信頼関係が生まれ、助け合いや支え合いにつながる
=住民同士がともに支えるしくみ



「関わる」・「支え合い」の2つをテーマに、子どもから高齢者までが楽しく暮らせるような地域を目指して協議を進める。

第9期の協議事項（4）

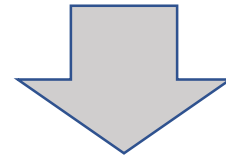
■支え合いのまちづくり

地域で行われている支え合い・助け合いは・・・

- ・人情味にあふれ、面倒見のいいところが厚田の良さであり魅力
- ・隣近所で日常的に行われている助け合いは、助け合いと思ってやっているのではなく、当たり前のことになっている
- ・近所の除雪や草刈りをしてくれる
- ・通夜や葬儀に出席できない人の香典を預かる
- ・道を歩いている高齢者等を車に乗せて送ってあげる
- ・隣近所の家のカートンが開いていないと呼び鈴を押して安否確認する

困っていると思われること、手を差し伸べたいことは・・・

- ・急に子どもの面倒を見てもらいたいときの助け
- ・家が点在する地域では目配りが行き届かない
- ・病院に行く場合の足の確保
- ・ちょっとしたことでも高齢者にとっては大変
- ・周りに迷惑を掛けたくないと思慮している人もいる



課題を一つ一つ整理していくことで、さらに住みよい地域になっていく。住民同士がともに支える地域づくりに向け、「あつクラ大作戦」に情報提供し、その検討経緯を見守る。

第9期の取り組み（1）

■住民自治の推進

地域住民とともに各種委員会に参画した。

- ・地域交通サービス検討委員会委員選出(3名)※協議終了
- ・集落支援員制度検討委員会委員選出(5名) ※協議終了
- ・地域おこし協力隊活用検討委員会委員選出(3名)

地域の代表として各種委員会に参画した。

- ・石狩市自治基本条例懇話会委員選出(1名)
- ・石狩市総合戦略推進懇話会委員選出(1名)

■諮問・答申

市からの諮問(石狩市テレビ共同受信施設整備事業分担金を廃止すること)について答申を行った。

- ・(答申)分担金徴収条例の廃止については妥当である

■過疎地域持続的発展市町村計画

計画の達成状況に対する評価を行った。

- ・地域協議会の中で協議を行った「移住定住」、「情報発信」、「子ども・教育」の3つのテーマを念頭に置いて今後の計画を進めてもらいたい。

■地域づくり基金の活用

厚田アクアレーン実行委員会から提案のあった基金活用案を承認した。

- ・令和4年度募集に係る事業費の2分の1相当額(20万円)の活用
- ・令和5年度展覧会実施に係る事業費の2分の1相当額(75万円)の活用

第9期の取り組み（2）

■地域おこし協力隊の活用

地域の魅力向上・活性化を目指し、都市地域の人材を受け入れ、地域おこし協力隊として採用した。

- ・(再掲)地域おこし協力隊活用検討委員会委員選出(3名)
- ・令和4年度地域おこし協力隊の募集要項の確認、募集及び採用(1名)
- ・地域おこし協力隊の活動報告

■集落支援員の活用

地域課題の把握・解決に必要な集落対策を実施するため、地域の実情に詳しい地元の人材を集落支援員として採用した。

- ・(再掲)集落支援員制度検討委員会委員選出(5名)
- ・厚田区集落支援員の募集要項の確認、募集及び採用(1名)
- ・厚田カンパニー構想の具現化に向けた検討会「あつクラ大作戦」の支援

■学びの場

まちづくりの事例を学び、地域活性化に関する知見を高めた。

- ・まちづくりセミナー 令和5年4月18日(火)
講師:(株)北海道田舎プロデュース 代表取締役社長 大山慎介氏
- ・先進地視察 令和5年7月5日(水)
視察先:沼田町
視察テーマ:人口減少地域における「住みたくなるまちづくり」について

第10期への引継ぎ

■第10期への引継ぎ事項

今後の地域振興について

- ・地域おこし協力隊の活用、人数確保
- ・1次産業の担い手不足解消、観光資源の活用

地域おこし協力隊を活用しながら、1次産業の担い手不足解消や観光資源のさらなる活用を図るなど、今後の地域振興について協議してほしい。

ともに支え合う地域づくりについて

- ・集落支援員との情報共有、活動支援
- ・仕組みづくり・活動拠点づくりなどの実施準備

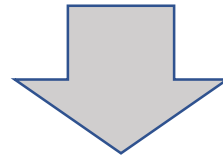
集落支援員・検討会の活動支援を行うとともに、住民同士がともに支え合う「共助のまち」の実現に向け、具体的な準備に取り掛かることを検討してほしい。

地域自治区廃止後(※)の地域のあり方について

- ・地域自治区廃止による影響
- ・地域の声を拾い上げる場づくり

地域自治区廃止後の地域のあり方について、将来の厚田の姿をイメージしながら協議してほしい。

(※)これまで、合併特例債発行期間の延長に合わせて地域自治区の設置期間も延長してきましたが、今後、合併特例債の発行期間延長がない場合には、令和8年3月末をもって地域自治区は廃止されることとなります。



厚田における今後の地域のあり方について、将来にわたって持続可能な形となるよう、地域の代表として熱心かつ真摯な議論を行っていただきたい。